



1946年当時の米海軍軍政府と沖縄諮詢会メンバー
前列の右から5番目が當山正堅(琉米歴史研究会)

しかし、沖縄キリスト教連盟の中から不信任案を唱える者がいたため、當山は民政府の文化部長を辞し、沖縄キリスト教連盟に力を注ぐことになりました。しかし、この後も一部理事たちからデマなどの攻撃がつづき、當山は心身を痛めて病床に臥したため、連盟の理事長も辞めることになりました。

その後、回復した當山は再び同僚や後輩のために精力的に活動しましたが、再び体調を崩し、1952年5月、その生涯を閉じました。

(幸喜)

【當山正堅 年譜】

- 1886年 恩納村谷茶に生まれる。
- 1908年 沖縄県師範学校本科を卒業し、名護尋常小学校訓導となる。教員生活が始まる。
- 1912年 辺土名尋常小学校訓導兼校長となる。欠席児童が多いため家庭訪問を行った結果、地域住民の耕作のための道路「戻る道」が貧困につながっていることを知り、開削工事に取り組む。その後各地の小学校校長を務める。
- 1933年 このころ、東風平尋常高等小学校に勤めており、沖縄民権運動の先駆者謝花昇の偉業を全県に紹介した。
- 1941年 恩納村長に就任。
- 1942年 県会議員に当選(兼任)。

その他にも救らい運動にも献身している。また、那覇市の「桜坂」は當山正堅が名付けたという。享年65歳。

【参考文献】

- ・文教局研究調査課編『琉球史料第一集』1956年(『琉球史料第1集 政治編1(復刻)』1988年)
- ・文教局研究調査課編『琉球史料(第三集)』1958年(『琉球史料第3集 教育編(復刻)』1988年)
- ・文教局研究調査課編『琉球史料 第九集 文化編1』1965年(『琉球史料 第九集 文化編1(復刻)』1988年)
- ・文教局研究調査課編『琉球史料 第十集 文化編2』1964年(『琉球史料 第十集 文化編2(復刻)』1988年)
- ・沖縄県教育庁文化財課史料編集班編『沖縄県史 各論編 第七巻 現代』2022年
- ・山城善三編『當山正堅伝』1959年